

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 つくべた		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 15日		～ 令和 8年 1月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 27名
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 15日		～ 令和 8年 1月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 支援環境の良さ 活動スペースが広く、清潔で視覚的にわかりやすい環境が整っている 子どもの安心感 	<ul style="list-style-type: none"> 活動スペースが広く、清潔で視覚的にわかりやすい環境が整っている。 子どもの発達や特性に応じた、関り。 職員間で情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の発達や特性に合った、支援環境を職員間で情報共有し、再検討を繰り返す事で、さらに充実した過ごしやすい環境作りを行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 職員の専門性 専門職が適切に配置され、子どもの特性理解が深い 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が保育士とリハビリ職員を配置し、子供に対する理解が深めやすい職場づくりを意識している。 年間計画で、研修(外部研修含む)を計画し、必要な知識教養を深める環境作りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修の計画的な参加についてさらに充実に図る。 新人職員向けの育成プログラム整備(支援の統一化と質の安定)
3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携 相談しやすく、対応が迅速で、連絡帳などの情報共有が丁寧。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳を使用した、いつでも相談できる環境作り。 相談しやすい、スタッフと保護者の関係作り。 1回/年、事業所独自のアンケートにて、保護者の意見や意向を元に、事業所運営に反映。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族支援サポート(事業所内相談)等をが家族に周知、個別での支援方法などの相談等が出来る環境であることを周知。 ペアレントトレーニングやその他研修会などの情報を提供する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流 	<ul style="list-style-type: none"> 交流の機会が少ない、または保護者への周知が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に地域交流予定を明記し、実施後は写真付きで報告。 並行登園を積極的に取り入れる。 地域資源を利用した外出先での活動支援を取り入れる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 家族支援プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ペアトレや研修会の周知不足 	<ul style="list-style-type: none"> 家族支援サポート(事業所内相談)等をが家族に周知、個別での支援方法などの相談等が出来る環境であることを周知。 ペアレントトレーニングやその他研修会などの情報を提供する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 防災・緊急時対応の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練やマニュアルの認知が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練実施後に「実施内容・学び」をまとめた通信を配布。